

秋期「緑の募金」趣意書

戦後の荒廃した国土に緑を取り戻すために始まった「緑の募金」運動は、昭和 25 年の発足以来、多くの県民の皆様を支えられ、森林整備や学校・公共施設の緑化、次代を担う緑の少年団の育成など、県内の多様な緑化活動に大きく貢献してきました。

一方で、木材価格の低迷などの影響により、本県には手入れが行き届かない森林が多く存在し、災害発生の懸念や、森林が本来持つ多様な機能が十分に発揮されない状況が危惧されています。さらに近年では、地球温暖化防止の観点から、森林による二酸化炭素の吸収・蓄積や、野生鳥獣被害対策などを目的とした森林整備の推進が、これまで以上に求められています。

これらの目的を達成するため、地域住民や緑化団体などのボランティアの皆様が、たゆまぬ緑化活動を今日まで継続してこられました。ふるさと新潟の豊かな森を守り続けるためには、このような不断で地道な取り組みが欠かせません。

また、緑や森に親しみ、ふれあうためには、地域に身近な拠点となる森や活動の場を整備するとともに、緑化活動を維持・継続していくため、次世代を担う子どもたちに活動への理解と参加を促していくことも重要です。

9 月 1 日から全国一斉に秋の「緑の募金」運動が始まりますが、本県においても、地域の拠点となり多くの方々が参加できる森づくり、企業の皆様とボランティア団体等が協働して進める森づくり、そして次世代を担う子どもたちの森林環境教育や自然体験活動を支援するために、目標額を「**2, 000 万円**」に定め、秋期「緑の募金」運動を展開いたします。

この運動によって皆様から寄せられた浄財を財源として、緑と潤いに満ちた豊かな地域を次の世代へ引き継ぐため、県民参加による森づくりを推進してまいります。

県民参加の森づくりを進めるには、多くの皆様のお力添えが欠かせません。世界各地で紛争が相次ぎ、物価高騰などにより経済情勢が依然として厳しさを増す中ではありますが、秋期「緑の募金」の趣旨をご理解いただき、本運動へのご賛同とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和 8 年 9 月



公益社団法人 にいがた緑の百年物語緑化推進委員会

理事長 平山 征夫

